

## (2) 社会

### ア 個々の問題の概要及びその通過率

— 評価の観点 —	
思・判	：社会的な思考・判断
技・表	：資料活用の技能・表現
知・理	：社会的事象についての知識・理解

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	評価の観点	設定通過率 (%)	通過率 (%)
地理的分野 (2)イ	1	(1) 青森県の主な夏祭りの観光客数について、資料からその特徴を読み取ることができる。	技・表	60.0	54.9
		(2) 青森県の主な都市の位置を指摘することができる。	知・理	60.0	42.1
		(3) 青森県の気候の特色を説明することができる。	知・理	60.0	15.5
地理的分野 (2)ア	2	(1) 2万5千分の1地形図に示された地域の様子を読み取ることができる。	技・表 知・理	70.0	77.8
		(2) 縮尺を手がかりに、地図上の長さから実際の距離を求めることができる。	技・表 知・理	50.0	27.0
		(3) 地形図中の等高線から、実際の地形を読み取ることができる。	技・表 知・理	60.0	33.8
地理的分野 (1)ア	3	(1) 三大洋のひとつである大西洋の位置を世界地図上で理解している。	知・理	70.0	78.7
		(2) 地球上の地点を緯度と経度を用いて表すことができる。	知・理 技・表	70.0	48.4
		(3) 簡単な時差の計算ができる。	知・理 技・表	50.0	38.7
地理的分野 (2)イ	4	(1) 資料から、都道府県の産業別人口における特徴を読み取ることができる。	技・表 思・判	60.0	10.8
地理的分野 (1)イ		(2) 人口の少ない5つの県の位置と名称を理解している。	知・理	50.0	64.5
地理的分野 (2)ウ	5	(1) 資料から世界の国々の特徴を読み取ることができる。	技・表	60.0	51.5
		(2) 資料から気候の特色を読み取り、気温図にあてはまる都市名を指摘できる。	技・表 思・判	50.0	23.9
歴史的分野 (2)ア	6	(1) 弥生時代の特色について、遺物と遺跡と結び付けて理解している。	知・理 思・判	70.0	47.2
		(2) 甲骨文字について理解している。	知・理	60.0	85.5
歴史的分野 (2)イ	7	(1) 邪馬台国について理解している。	知・理	70.0	62.4
		(2) 資料から、各時代ごとの前方後円墳の特徴や分布について読み取ることができる。	技・表	70.0	78.8
歴史的分野 (2)ウ	8	(1) 資料から、聖徳太子が中国との対等な関係のもとに外交をすすめるようとしていたことを指摘できる。	知・理 思・判	70.0	60.9
		(2) 平城京から平安京に遷都した経緯について理解している。	知・理	70.0	51.7
歴史的分野 (3)ア	9	(1) 御恩と奉公の関係について将軍と御家人の立場から説明できる。	知・理	60.0	55.3
		(2) 応仁の乱の内容とその影響について理解している。	知・理	65.0	40.4
		(3) 室町時代の農村の自治のしくみの名称を理解している。	知・理	60.0	68.9
		(4) 戦国大名の「分国法」について理解している。	知・理	65.0	17.7
		(5) 信長の政策について指摘できる。	知・理	65.0	63.5
歴史的分野 (4)ウ	10	(1) 武家諸法度のねらいが大名統制にあったことを指摘できる。	知・理 思・判	50.0	48.6
歴史的分野 (4)オ		(2) 江戸幕府の政治改革の順序を理解している。	知・理	60.0	60.4
歴史的分野 (4)エ		(3) 江戸時代の町人文化(元禄・化政)文化の代表的な作品を理解している。	知・理	60.0	34.0
歴史的分野 (1)ア	11	(1) 天平文化と関わりの深い人物を指摘できる。	知・理	65.0	54.3
		(2) 資料(絵)を通じて、時代区分の順序を理解している。	知・理	55.0	28.8

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内			西 北 管 内			
			青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡	
1	(1) 青森県の主な夏祭りの特徴	60.0	54.8	55.5	45.6	56.8	56.7	53.3	59.0
	(2) 青森県の主な都市の位置	60.0	39.7	39.1	48.5	42.2	43.4	43.2	40.3
	(3) 青森県の気候の特色	60.0	15.2	15.6	10.2	15.9	16.0	8.2	20.7
2	(1) 地形図による地域の様子の読み取り	70.0	79.5	79.7	76.7	77.3	75.1	78.2	78.9
	(2) 地図上での距離の読み取り	50.0	30.4	30.9	23.8	29.4	31.4	24.1	30.8
	(3) 等高線による実際の地形の読み取り	60.0	34.5	34.5	34.0	32.2	29.8	33.4	34.0
3	(1) 三大洋の位置	70.0	81.4	81.6	78.6	75.5	78.6	64.5	79.3
	(2) 地球上の地点を緯度と経度	70.0	49.6	49.7	48.1	46.1	48.2	39.8	47.8
	(3) 簡単な時差の計算	50.0	43.7	43.9	40.3	35.8	33.0	34.0	40.0
4	(1) 都道府県の産業別人口における特徴	60.0	12.9	13.0	12.6	10.7	10.8	10.3	10.7
	(2) 人口の少ない5県の位置と名称	50.0	65.1	65.0	65.5	61.8	58.3	61.5	65.6
5	(1) 世界の国々の特徴の読み取り	60.0	54.1	54.7	45.6	50.3	50.6	49.3	50.5
	(2) 世界の国々の気候の特色	50.0	24.6	24.7	22.8	23.2	22.8	18.3	27.5
6	(1) 弥生時代の遺跡	70.0	53.1	53.3	51.5	44.7	41.4	49.3	45.2
	(2) 甲骨文字	60.0	88.5	88.4	88.8	85.7	87.8	80.1	86.9
7	(1) 邪馬台国	70.0	68.6	68.6	68.0	61.8	64.2	59.9	60.5
	(2) 前方後円墳の特徴や分布	70.0	80.1	80.5	74.3	80.7	80.3	82.0	80.3
8	(1) 聖徳太子による中国との外交	70.0	63.7	63.9	60.7	57.4	57.5	57.3	57.3
	(2) 平城京から平安京への遷都	70.0	58.6	59.7	44.2	55.9	57.8	57.6	52.7
9	(1) 御恩と奉公の関係	60.0	60.6	60.5	61.2	58.1	56.3	56.8	60.9
	(2) 応仁の乱の内容とその影響	65.0	44.2	44.6	38.8	37.7	35.5	31.6	43.9
	(3) 室町時代の農村の自治のしくみ	60.0	71.0	71.4	65.0	71.5	69.9	70.8	73.6
	(4) 戦国大名の「分国法」	65.0	23.4	23.6	20.4	16.8	17.0	11.4	20.1
	(5) 信長の政策	65.0	66.3	66.8	59.2	59.8	59.0	57.3	62.2
10	(1) 武家諸法度のねらい	50.0	51.7	51.9	49.5	45.8	42.2	38.5	54.4
	(2) 江戸幕府の政治改革の順序	60.0	61.7	61.9	59.2	60.1	59.3	52.5	65.8
	(3) 元禄・化政文化の代表的な作品	60.0	39.2	39.0	41.3	29.9	30.0	24.1	33.7
11	(1) 天平文化と関わりの深い人物	65.0	56.7	56.8	55.8	52.5	53.7	43.8	56.8
	(2) 時代区分の順序	55.0	32.4	32.4	32.5	25.6	25.0	21.0	29.3
教 科 全 体		61.6	52.0	52.2	49.1	48.4	48.0	45.2	50.8

(単位：%)

中 南 管 内					上 北 管 内				下 北 管 内			三 八 管 内			県全体
弘前市	黒石市	平川市	中・南郡		十和田市	三沢市	上北郡		むつ市	下北郡		八戸市	三戸郡		
54.9	55.0	57.7	55.9	50.4	52.8	58.8	50.1	49.5	50.6	49.4	54.8	56.6	57.4	54.0	54.9
42.1	42.9	36.9	41.8	44.2	41.8	43.7	39.8	41.5	42.9	42.4	44.6	44.0	43.3	46.5	42.1
15.2	15.7	8.7	22.9	13.6	13.5	17.6	7.8	12.0	10.8	9.7	14.9	18.0	16.7	22.2	15.5
76.9	76.8	75.9	79.8	76.2	79.9	81.4	80.0	78.6	72.1	70.9	76.8	77.3	78.3	74.2	77.8
24.5	26.4	22.6	22.9	18.4	26.6	31.4	22.1	25.1	22.0	21.6	23.2	26.2	26.0	26.6	27.0
35.5	35.0	37.2	35.4	36.3	33.0	36.3	34.5	29.8	33.0	33.7	30.4	33.3	34.5	29.1	33.8
77.3	77.9	75.6	79.8	73.7	76.8	81.7	76.2	73.4	72.0	69.6	81.0	81.8	82.3	79.9	78.7
47.3	47.6	45.9	50.5	44.4	46.6	52.8	44.6	42.7	46.9	43.4	59.5	50.7	51.6	47.7	48.4
36.9	36.3	36.4	39.1	38.2	32.8	37.8	31.6	29.4	31.2	28.8	39.9	42.5	43.7	38.4	38.7
10.0	11.3	6.9	9.1	7.6	8.8	12.6	6.3	7.1	8.3	9.0	6.0	11.5	11.4	11.7	10.8
65.7	65.9	67.7	65.0	63.4	62.8	67.2	66.9	57.4	62.3	60.4	69.0	65.9	66.7	63.2	64.5
51.3	53.5	49.0	46.5	47.2	50.2	56.1	47.4	47.2	46.2	44.4	53.0	52.1	52.5	50.5	51.5
23.5	23.6	21.5	23.6	25.5	23.3	27.8	20.8	21.5	22.1	21.1	25.6	24.5	25.1	22.3	23.9
48.2	48.5	50.5	44.1	48.0	45.8	43.9	47.6	46.4	40.9	38.8	48.8	44.4	45.0	42.2	47.2
78.9	80.3	86.2	60.6	79.4	84.4	90.8	88.0	77.7	81.0	78.6	89.9	90.1	90.1	89.9	85.5
59.1	59.8	57.7	62.3	55.0	63.4	67.0	65.7	59.5	54.8	53.7	58.9	60.8	61.9	57.2	62.4
79.3	78.5	79.5	82.8	79.7	78.1	81.8	77.5	75.5	75.7	74.5	80.4	77.6	78.6	74.2	78.8
60.2	59.6	61.5	62.3	60.4	61.5	64.9	60.0	59.7	59.3	59.2	59.5	60.7	62.0	56.1	60.9
52.4	48.9	60.5	53.5	59.9	58.0	60.9	56.8	56.4	40.4	42.6	32.7	41.4	43.4	34.6	51.7
51.2	49.9	56.7	52.2	50.7	54.5	58.2	52.6	52.6	45.2	45.0	45.8	55.5	55.1	56.8	55.3
39.3	39.1	36.7	41.8	40.7	38.2	42.6	35.8	36.0	37.9	37.3	39.9	41.2	41.8	39.2	40.4
67.9	69.2	69.0	64.6	63.7	67.6	68.4	73.3	64.1	61.6	60.1	67.3	68.8	68.2	71.0	68.9
16.7	19.8	11.3	14.5	9.2	12.4	14.7	13.1	10.3	10.8	11.3	8.9	18.8	19.5	16.2	17.7
61.0	60.2	63.8	60.6	62.1	64.7	67.6	64.4	62.6	59.9	57.9	67.3	64.7	65.2	62.7	63.5
45.2	42.7	48.2	51.2	49.1	52.1	56.4	48.2	50.7	40.8	37.6	52.4	49.6	50.2	47.5	48.6
61.5	62.0	53.6	61.3	67.2	57.2	58.9	55.2	56.8	49.2	48.3	52.4	63.1	64.1	59.4	60.4
30.6	34.5	17.4	41.1	17.6	26.3	28.4	18.5	28.7	19.8	18.8	23.2	42.1	43.7	36.7	34.0
52.0	51.9	54.4	54.2	48.2	51.7	57.0	50.5	48.2	47.8	47.5	48.8	57.9	58.5	55.7	54.3
27.4	28.2	27.9	26.9	23.3	26.7	28.2	27.8	24.9	24.9	25.0	24.4	30.4	31.0	28.7	28.8
48.0	48.4	47.5	48.5	46.7	48.2	51.7	47.9	45.7	43.8	42.8	47.6	50.1	50.7	48.1	49.3

## ウ 内容・領域別結果の概要

内容・領域	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各内容・領域の 通過率(%)	設定通過率 (%)
世界と日本の 地域構成	4	3(1)、4(2)	3(3)	57.6	60.0
地域の規模に 応じた調査	9	2(1)	1(3)、2(2)、 2(3)、4(1)、 5(2)	37.6	58.9
歴史の流れと 地域の歴史	2		11(2)	41.5	60.0
古代までの日 本	6	6(2)、7(1)、 7(2)、8(1)		64.4	68.3
中世の日本	5	9(3)、9(5)	9(2)、9(4)	49.2	63.0
近世の日本	3	10(2)	10(3)	47.7	56.7

内容・領域別にみると、通過率の高かったのは、「世界と日本の地域構成」、「古代までの日本」である。

通過率が低かったのは、「地域の規模に応じた調査」、「歴史の流れと地域の歴史」である。

設定通過率と比較すると、これを上回った内容・領域はなく、同程度だったのは、「世界と日本の地域構成」、「古代までの日本」である。また、下回ったのは、「地域の規模に応じた調査」、「歴史の流れと地域の歴史」、「中世の日本」、「近世の日本」である。

## エ 評価の観点別結果の概要

評価の観点	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各観点の 通過率(%)	設定通過率 (%)
社会的な 思考・判断	5	8(1)	4(1)、5(2)	38.4	60.0
資料活用の 技能・表現	10	2(1)、7(2)	2(2)、2(3)、 3(3)、4(1)、 5(2)	44.7	60.0
社会的事象に ついての知識 ・理解	24	2(1)、3(1)、 4(2)、6(2)、 7(1)、8(1)、 9(3)、9(5)、 10(2)	1(3)、2(2)、 2(3)、3(3)、 9(2)、9(4)、 10(3)、11(2)	50.3	61.9

観点別にみると、通過率が高かったのは、「社会的事象についての知識・理解」であり、通過率が低かったのは「社会的な思考・判断」である。

設定通過率との比較では、これを上回ったり同程度のものはなく、すべての観点でこれを下回っている。

なお、中学校社会科の場合、小問の評価の観点が複数あるものが多く、各観点の通過率は、互いの通過率に影響している。

## オ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	設定通過率(%)	主な誤答(無答を含む)例 (かっこ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%)	
1	(3)	15.5	60.0	A偏西風(34.5)、ヤマセ(14.5)、冷害(9.0)、雨天(2.5)、その他(3.5) B雨天(9.5)、干ばつ(4.5)、冷害(3.0)、無答(2.0)、その他(3.5) C季節風(32.0)、偏西風(25.5)、雨天(1.5)、その他(3.0) D雨天(48.0)、干ばつ(6.5)、ヤマセ(3.0)、その他(4.0)
2	(2)	27.0	50.0	1500(14.0)、1000(7.5)、無答(15.5)、その他(35.0)
3	(3)	38.7	50.0	8時(12.5)、3時(8.5)、9時(5.0)、無答(14.0)、その他(25.5)
4	(1)	10.8	60	イ(69.0)、ウ(15.5)、エ(4.0)、無答(0.5)
5	(2)	23.9	50.0	①シドニー(16.5)、北京(11.5)、アテネ(10.5)、アメリカ(10.0)、 無答(9.0)、その他(8.5) ②アトランタ(11.5)、シドニー(12.0)、アテネ(7.5)、中国(9.5)、 無答(9.5)、その他(7.5) ③北京(11.5)、シドニー(9.0)、アトランタ(10.5)、 ギリシャ(14.0)、無答(9.0)、その他(5.5) ④アトランタ(16.5)、アテネ(13.0)、北京(9.0)、 オーストラリア(9.0)、無答(8.5)、その他(9.5)
9	(4)	17.7	65.0	武家諸法度(21.5)、無答(36.0)、その他(25.0)
11	(2)	28.8	55.0	A-C-D-B(16.5)、A-D-C-B(11.0)、C-A-B-D(9.0)、 A-C-B-D(3.5)、C-B-A-D(3.0)、無答(1.5)、その他(28.0)

- 1(3)について

誤答の原因として、Aについては「偏西風」・「ヤマセ」、Cについては「季節風」・「偏西風」としたものが多いことから、気候に影響を与えている津軽地方の「北西の季節風」と県南地方の「ヤマセ」についての理解が不十分であることが考えられる。

- 2(2)について

誤答の原因として、実際の直線距離を求めただけで、道のりとの差を計算しなかったことが考えられる。また、それを上回って無答が多いことから、地形図から実際の距離を求める活動が不足していること等が考えられる。

- 3(3)について

誤答の原因として、20度ごとにひかれていた経線を15度ずつと読み違えてしまったこと等が考えられる。

- 4(1)について

誤答の原因として、愛知県を近畿地方の県として認識していること等が考えられる。

- 5(2)について

誤答の原因として、資料中の開催都市の緯度・年降水量・年平均気温のデータを、雨温図の選択に結びつけられなかったこと等が考えられる。また、解答に国名を記述したものがあり、問題文をよく読んでいないことが考えられる。

- 9(4)について

誤答の原因として、戦国大名の領国支配に関連する「分国法」についての知識の定着が不十分であることが考えられる。

- 11(2)について

誤答の原因として、各時代の文化についての理解と、時代区分についての定着が不十分であることが考えられる。

## カ 今後の指導について

内容・領域別にみた課題としては、地理的分野では、「地域の規模に応じた調査」における、地形図の読図能力や、資料の中の情報を正確に読み取る能力の伸長と青森県の特徴の把握が挙げられる。

今後の学習指導においては、

- ①身近な地域の地形図を活用し、土地利用の様子や距離を実感させながらとらえさせる。
- ②具体的な例を用いて、表をグラフ化するなどの作業を取り入れる。
- ③青森県全体の地理的特色を大観し、資料を用いて地域的特色を明らかにする活動を展開する。

などの活動を取り入れることが大切である。

歴史的分野における課題としては、資料を用いて各時代の特徴やその流れをとらえさせるための指導の工夫と基礎的・基本的な内容の定着が挙げられる。

今後の学習指導においては、

- ①様々な資料から学習課題に対して必要な事実を読み取り、歴史的事象の因果関係やその意味を考察させる。
- ②各時代の代表的な事柄を調べ、年表にまとめるなどの「作業的な学習」を通して、個々の歴史的事象を大きな流れの中に位置付ける学習活動を展開する。

などの活動を取り入れることが大切である。

評価の観点別にみた課題として、「社会的な思考・判断」については、社会的事象に対する関心を高めさせながら、諸資料に基づいて多面的・多角的にとらえる能力の伸長が挙げられる。

今後の学習指導においては、資料の読み取りだけでなく、複数の資料を比較し、共通点や相違点を見付け、自分の考えをまとめさせる活動を取り入れることが大切である。その際、生徒の作業の場や意見交換等の話し合いの場、発表の場を意図的に設けることが必要である。

「資料活用の技能・表現」の課題としては、社会的事象の認識を深めることができるように、表やグラフ、地形図などの読み取りに関する基礎的な技能を身に付けさせることが挙げられる。

今後の学習指導においては、目的に応じた資料の読み取りに関する視点を明確にし、活動の場を設定して、段階的に学習できるよう工夫することが大切である。

「社会的事象についての知識・理解」の課題としては、各観点との関連を図り、学んだ知識をその後の学習に活用できるようにすることが挙げられる。



今後の学習指導においては、課題解決的な学習過程の中に作業的・体験的な活動を位置付け、既得知識を十分に活用し授業を展開することが大切である。

個々の問題の誤答傾向からみた課題としては、地理的分野においては、青森県全体の地理的特色を把握すること、地形図や統計資料の読み取りとその活用が挙げられる。

今後の学習指導においては、身近な地域の地形図を用いて実際の距離を求めさせるなど、自分の課題として習得できるように、授業での活用場面を意図的に工夫し、継続して指導する必要がある。また、気候や土地利用など都道府県のあらましを習得させ活用を図っていくこと、統計資料の読み取りについては、授業の中で考える力を育てる指導を具体的にしていくことが大切である。

歴史的分野においては、各時代の生活の様子や文化などの特色をつながりのある時代背景の中でとらえさせていくことが大切となる。

今後の学習指導においては、各時代の特色や時代の転換にかかわる基礎的・基本的な歴史的現象のもつ意味をしっかりと理解させ、分かったことを自分の言葉でまとめ発表するなどの指導を工夫していくことが望まれる。

**指導例 「青森県の気候」の指導について**

**(1) 青森県における気候条件を地球儀、地図帳等で確認させる。**

- ①緯度…中緯度に位置している。
- ②海洋（海流）…三方を海に囲まれており<sup>※1</sup>、寒流<sup>※2</sup>が流れている。
  - ※1…日本海、太平洋、津軽海峡、陸奥湾    ※2…リマン海流、千島海流（親潮）
- ③地形…八甲田山（奥羽山脈）を中央に、西に津軽地方、東に県南地方が位置する。
- ④風…季節風「夏は海洋から大陸へ、冬は大陸から海洋へ吹く、半年ごとに向きが変わる風」  
ヤマセ「オホーツク海に発達する高気圧により吹く冷たい北東風」

**(2) 副読本『わたしたちの青森県』を活用し、気候の特色をまとめさせる。**

中学校社会科副読本『わたしたちの青森県』を用いて、青森県の気候の特徴を調べまとめさせる。なお、気候は農業などの産業に大きな影響を与えるため、実際の授業では、気候に関する知識を他の分野の学習に活用できるよう意識しながら指導を進めていくことが大切である。

このように青森県の地形は、海と平野と山地が複雑に入り組んでおり、それが県内の気候に大きな影響を与えています。青森県の気候区は、津軽半島を中心とする日本海側の気候区と三本木原を中心とする太平洋側の気候区に分けられます。さらに、津軽半島北端部や下北地方は、津軽海峡の影響が強く、これらの気候区とは異なった特徴を持っています。

また、青森県は、四季の変化がはっきりしています。四季は3か月ごとに移り変わり、夏が短く、冬が長い冷涼な気候に属しています。日本海側の津軽地方と太平洋側の県南地方とは気候のちがいがだいぶ見られ、冬の津軽地方は大陸から吹く冷たくしめった季節風の影響で、雪の日が多いのに対して、県南地方では晴天の日が続き雪も少なくなります。夏は、オホーツク海に発達する高気圧のため、県南地方には、「ヤマセ」がふき、低温で小雨の日が多く、冷害にみまわれやすくなりますが、反対に津軽地方は一般に気温が高い日が続きます。

(中学校社会科副読本「わたしたちの青森県」青森県教育委員会P3より)

地域による気候の特色		
	津 軽 地 方	県 南 地 方
夏	一般に気温の高い日が続く。	オホーツク海の高気圧による <u>ヤマセ</u> の影響で低温小雨となり、冷害になりやすい。
冬	冷たい <u>季節風</u> の影響で雪が多く降りやすい。	乾いた風の影響で晴天で乾燥する。

設定通過率との比較からみた課題としては、基礎的・基本的な内容の定着が挙げられる。設定通過率を25ポイント以上下回った小問が7問あり、そのうち3問は40ポイント以上下回っている。40ポイント以上下回った小問の具体的な内容を見ると、

- ①人口の多い都道府県と少ない都道府県の表から読み取れる内容を問う問題
- ②戦国大名が領国を支配するために定めたきまりの名称（分国法）を問う問題
- ③青森県の気候の特色について適する語を選んで答える問題

であり、設定通過率が60～65%であるのに対して、通過率はいずれも20%に達していない。

①は、本来資料活用能力を確認するための小問であったが、分析の結果から、誤答の主な原因が都道府県とその属する地方名についての知識が不十分であることが考えられる。また、②、③では基本的な知識を問うものであることから、それらの知識が定着していないことが考えられる。

今後の学習指導においては、都道府県の名称と位置・地方名についての指導を、知識の定着を確認しながら確実に指導し、地理的分野の学習の中で折に触れ繰り返し確認することや、県教育委員会で発行している社会科副読本『わたしたちの青森県』を活用し、青森県の気候の特色について確実な定着を図る必要がある。また、歴史的分野においては、各時代の基本的な内容について、他の時代と混同しないよう、時代ごとの学習のまとめを行い、前の時代と比較するなどの指導の工夫が必要である。

質問紙調査の結果によると、社会の勉強が好きだと答えた生徒（質問に「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒）の割合は58.3%で、理科に次いで高いが、社会の勉強が大切だと答えた生徒は68.8%で、理科に次いで低い。また、社会の授業がよく分かる、だいたい分かる と答えた生徒の割合は58.4%で、国語に次いで多い割合となっている。社会科が好きだと答えた生徒と分かる と答えた生徒の割合がほぼ同じとなっているのが社会科の特徴であり、「分かる授業」の実践が社会科への興味関心を高めることにつながると考えられる。

## キ まとめ

内容・領域別では、地理的分野の「世界と日本の地域構成」、歴史的分野の「古代までの日本」が良好である。一方、地理的分野の「地域の規模に応じた調査」の問題で不十分な点が見られる。また、評価の観点別でも、昨年度同様、「社会的な思考・判断」、「資料活用の技能・表現」の問題で不十分な点が見られ、特に、「地域の規模に応じた調査」については、これまでと同様、青森県についての知識や地形図から実際の距離を求めること、表からの事実の読み取りなどに、不十分な点が見られる。また、小問ごとに見ると、歴史的分野においても、戦国大名が領国を支配するために定めた「分国法」の名称の定着が図られていないなど、不十分な点が見られた。

今後の指導においては、基礎的・基本的な内容となる知識（概念等含む）を明確にするとともに、課題解決的な学習過程を基本として、調べたことから自分の考えをもたせ、話し合いの中で知識の一般化を図ることが大切である。その際、教師が資料から何を読み取るのかの視点を生徒に与え、調べさせることが必要である。

また、得た知識を活用し新聞等の資料を作成させたり、問題を考えさせ生徒同士で出題し合うなどの学習活動の工夫により、定着を図ることも大切である。